



新 企 第 64 号
平成19年5月7日

国土交通省道路局長 様

新宮市長 佐藤 春陽



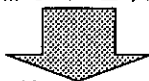
中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありました標記の件について、別紙のとおり提出しますので、よろしくお願いいたします。

中期的な計画の作成にあたっての意見

☆地方生活者の暮らしを守る道路を！（都市の景観改善よりも）

東京日本橋周辺における首都高速の地中化などが議論されている一方で、基本的なインフラさえ未整備な本地域の現状は…

**新宮地域は地方の問題が凝縮！**

雇用の場の不足、限界集落の増加、若者の都市部への流出、耕作放棄農地…
地方は今、疲弊の極みに。

■防災面では…

- 南海・東南海地震の発生確率の高まり
- 台風の襲来や豪雨は、沿岸部住民の脅威に！



大震災の発生に備える迂回路もない本地域。広域的な防災計画を立てようにも、現実味を帯びたものにはなりえない。

■医療面では…

- 市立医療センターでは深刻な医師不足



地域医療確保のため、病院間の連携を可能にする高規格道路が一刻も早く必要。

■地域間連携では…

- 地域間連携を図る上で不可欠な、円滑な移動手段が不十分



地域間アクセス道整備により、近隣市町村との連携のもと、より良い地方自治への活路を！

疲弊する地域の再生のためには…

地域と地域、都市と地方を結び、豊富な自然・文化資産を最大限活用した観光交流で、都市圏から離れたこの地域にも自立と活性化への光を！

防災道路としても機能する“近畿自動車道紀勢線（「県境部 三重県側との接続」・「那智勝浦道路の延伸」と「河口大橋の架橋」含む）”、並びに“地域高規格道路「五條新宮道路」”の最優先整備を本地域は求めます。

中期的な計画の作成にあたっての意見

本地域は、防災道路としても機能する“近畿自動車道紀勢線（「県境部 三重県側との接続」・「那智勝浦道路の延伸」と「河口大橋の架橋」含む）”、並びに“地域高規格道路「五條新宮道路」”の最優先整備を求めます。

理由その1／新宮地域は地方の問題が凝縮！

広大な半島の先端部に位置し、都市部から遠く離れた本地域は、地方が抱える全ての問題を凝縮しています。

現在、我が国では、少子・高齢化、雇用の場の不足、地域医療の崩壊、財政難など、多くの課題を抱えています。そして、そのどれをとっても、本地域はどの地方より、その深刻さが一層顕著に現れています。それに加え、過疎化の進行による限界集落の増加、若者の都市部への流出、耕作放棄農地や管理不十分な荒廃森林の増加など、「格差社会」のひとつことではとても言い表せないような状況です。

経済成長とともにあらゆるインフラが優先整備されてきた、大都市圏の隆盛の一方で、この地域は今、疲弊の極みに達しようとしています。

防災面でも、本地域は、日本が抱える大きな問題が凝縮する地です。予見される南海・東南海地震の発生確率は、近年非常に高まってきています。また、毎年悩まされる相次ぐ台風の襲来や頻繁な豪雨は、地球温暖化等による気象の急変のため、近年より激しくなっており、沿岸部の住民には脅威となってきました。日本屈指の流量を誇る熊野川の治水もますます厳しい対応が必要です。

理由その2／危機管理態勢が組めない！

人の命と暮らしを守るための防災の取り組みは、最優先しなければなりません。

先の新潟県中越地震では、首都圏との間を直接結ぶ「関越自動車道」が寸断されましたが、西方に「上信越自動車道」、東方に「磐越自動車道」と、広域的なネットワークが形成されていたため、これらを迂回路として、首都圏から救援の手が差し伸べられたと聞きます。

三方を海に囲まれているこの地域には、迂回路どころか、縦軸に「国道168号」、横軸にただ1本の「国道42号」しかなく、それさえ、海岸沿いや山間部の危険箇所を多く抱えています。これでは、大震災の発生に備え、広域的な防災計画を立てようにも、陸上交通に頼るプランは机上のものだけであり、現実味を帯びたものにはなりません。これは、発災時の危機管理態勢構築以前の問題です。

そういった不利な条件を背負う本地域が、明るい未来を描くための材料は、国の中央

から見れば原始的とも言えるほど、本当に基礎的なインフラ整備です。都市と地方のバランスを欠いた現在の状態は、狭い国土と限られた資源しか持たない我が国に多くの弊害をもたらします。全国にまんべんない道路整備を行わずして、国土を守ることはできません。

理由その3／満足な医療も受けられない

2004年度から始まった新医師臨床研修制度により、本地域の拠点病院である市立医療センターでも医師が不足するようになり、深刻な事態に直面しています。これは近隣の医療施設においても同様であり、病院間の連携を高めることで対応する必要に迫られています。そのためには、病院と病院を繋ぐ道路が、病院内の廊下として機能するほどのものでなくてはなりません。地域医療の確保のためにも、早く、安全に移動のできる高規格道路を地域住民は一刻も早くと求めています。

理由その4／合併しようにもアクセスが脆弱

現在、この地域の市町村間を繋いでいる道路は、道幅が狭い、カーブが多い、見通しが悪い、落石や崩落の危険があるなど、交通の安全性、円滑性からみて、アクセス道としての機能を十分に果たしうるものではありません。

新宮市と、隣接する旧本宮町は、古くから互いに深い関わりを持ち、住民も同一生活圏という意識を持つ人が多いですが、その間を結ぶ道路もまた、上述のとおりです。その旧本宮町が、既に拡幅整備された国道によって結ばれている、旧田辺市と市町村合併したことは、車社会と言われる昨今、特に、移動手段を車に依存せざるをえない地方においては、道路網の整備が地域間の交流に大きく影響することを示しています。

広域連携・広域行政の必要性の観点から、国は市町村合併を推進していますが、広域合併を考えようにも、新宮地域には、地域間の連携を図る上で不可欠な、円滑な移動手段が十分に確保されていません。

地域間のアクセス道が整備されれば、飛躍的な広域連携の推進が期待でき、近隣市町村との連携のもと、より良い地方自治への道に、活路を見出すことができます。

理由その5／疲弊した地域の再生のためには…

本地域は今、世界遺産にも登録された熊野古道をはじめとする、豊富な自然・文化資産を活用し、観光交流を広げることで、地域の活性化と自立を目指そうとしています。地域の魅力を道でつなぎ、美しい街道空間、美しいふるさとをつくっていくことによって「訪れる人」と「迎える地域」の豊かな交流を図る、「日本風景街道（シーニックバイウェイ）」の取り組みも始まっています。

「訪れる人」をこの地に導くのは、誰もが使いやすい道路です。私たちは観光でどこかを訪れようとする時、数ある行き先の中から目的地を決める時は、その土地の魅力と、そこまでの時間、費用などを秤にかけます。しかし、都市部の人々から見ると、「海外へ行くより時間がかかる」遠い存在である現状では、地域間競争の舞台に上ることさえ難しいのが現実です。

地域と地域、都市と地方を結ぶ高規格道路の整備は、広域的な観光交流を可能にすることでこの地域にも光をあて、独自の観光資源を最大限に生かした地域の再生に、大き

な力を発揮するものです。

市で昨年度実施した市民アンケートの結果では、幹線道路の整備に不満足と答えた人が約62%、重要度の高い施策との回答は約75%と、施策全体の中でも特に高くなっており、今後重点的に取り組むべきと考えている人の割合も非常に高くなっています。この地に生活する人々は日々の暮らしの中で、道路の必要性を悲しいほどに痛感しています。

最近、東京日本橋周辺の首都高速を地中化し、周辺の景観を改善しようという話が聞かれます。しかし、真っ先に高速道路が整備され、快適な生活が送れる都市部で、「景観」のための再開発に巨額な経費が費やされることは、未だに基本的なインフラさえ整備されずに取り残されている地方で、都市の人々の何倍もの道路特定財源諸税の負担に耐えながら道路の整備を待ち侘びている私たちには理解の範囲を到底超えています。

一地点の景観向上と、地方生活者の暮らしを守る道路、どちらが急がれるのか、言うまでもないはずです。都市住民の視点を気にせず、地方の道路整備を国家論の中で論じていきたいものです。国の発展について来られない地方を切り捨てるような国家政策には、疑問を持たざるをえません。都市の過密の問題や、首都圏における震災等の発生の可能性を考えても、一極集中を追認していくのではなく、代替機能を分散させるような、100年の計で国家政策を立てていく必要があると考えます。

近畿自動車道紀勢線 五條新宮道路

